



イラク：「イスラーム国」が第二の英国人を処刑

10月3日、インターネット上で「イスラーム国」がイギリス人アラン・ヘインズ氏を斬首する映像が出回った。映像には「アメリカとその同盟者へのもうひとつのメッセージ」との題がつけられて、ヘインズ氏の斬首とイギリス議会がイラクにおける「イスラーム国」空爆への参加を議決した件を関連付けた。また、映像の最後に、次の処刑候補としてアメリカ人のピーター・カッシング氏が引き出された。

評価

今般の処刑で、2014年8月以降に「イスラーム国」の斬首により犠牲になった者は通算4名（アメリカ人2名、イギリス人2名）となった。今回の斬首映像は時間にしてわずか70秒ほどで、もはや映像を通じて欧米諸国の世論を動揺させたり、何かメッセージを伝えたりする意図は希薄である。むしろ、定期的（約2週間）に処刑を繰り返すことにより、アメリカやイギリスにイラク・シリアに地上軍を派遣するよう挑発している意図すらうかがえる。実際、今般の処刑映像とほぼ同じ時間帯に、「イスラーム国」のイギリス人戦闘員が同国に対し地上部隊を派遣するよう挑発する発言の映像を発表している。

「イスラーム国」は、既に9月23日に出回った公式報道官の演説でアメリカ、イギリス、フランス、などの欧米諸国の者を軍人・民間人の区別なくあらゆる方法で殺害するよう扇動している。このため、一度「イスラーム国」に囚われれば、職業やイラク・シリアでの活動の内容などが、その人物の安否に影響を与える可能性はきわめて低い。また、「イスラーム国」が定期的に欧米人を拘束し、処刑を実施し続けていることから、現在のように非常に危険な状況であるにも関わらず、シリアに密航している欧米人が多数いることが示されている。本稿はいわゆる「自己責任」論を取るものではないが、シリアに密航することや「イスラーム国」に近づくことの危険性に一層の注意喚起が必要であろう。

（イスラーム過激派モニター班）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799